

横浜から始める、未来のための議論とアクション。次世代を担う若者と創るプラットフォーム「ヨコハマ未来創造会議」キックオフイベントレポート

横浜市は、GREEN×EXPO 2027（2027年国際園芸博覧会）の開催を契機に、20年・30年先の社会を担う現在の大学生や企業の若手社員の若者が参加、議論し、アクションを起こすきっかけとなるプラットフォームとして「ヨコハマ未来創造会議」（仮称）を新たに立ち上げます。

本レポートでは、「ヨコハマ未来創造会議」への想いや若者への期待などを共感し、会議体立ち上げに向けた機運を醸成するため、2023年12月10日（日）パシフィコ横浜にて、横浜市にゆかりがある学生や企業の若手社員が集って開催された「ヨコハマ未来創造会議」キックオフイベントの様子をお伝えします。



イベント当日に集まったゲスト・参加者全員での集合写真

あの時、横浜から。横浜市長が語る未来への想い

開会后、まず行われたのは山中竹春 横浜市長 によるスピーチ。「人間には”健康診断”があり、設定された項目をクリアする必要がある」と身近な例で参加者の心を掴み、地球にも「プラネタリーバウンダリー（地球の限界）」があることを説明。そして、気候変動や生物多様性の損失といった項目が危機的な状況にあり、地球が命の危機を迎えていることを訴えます。



山中竹春 横浜市長によるスピーチ

また「プラネタリーバウンダリー」の観点から、「ネイチャーポジティブ」「SDGs」「カーボンニュートラル」という3つの切り口を挙げ、それぞれの重要性について説明します。さらに、横浜市がGREEN×EXPO 2027の開催都市であることに触れながら、未来の社会を担う若者が議論して、アクションを起こすきっかけとなるプラットフォームこそ「ヨコハマ未来創造会議」だと、今回の立ち上げの背景を明かしました。そして、2040年に振り返ったとき「あの時、横浜から生まれたアイデアが実現されたよね」など、この場所から、横浜市の次の歴史を皆さんとつくっていきたい、と「ヨコハマ未来創造会議」への期待を語りました。

次世代の若者の伴走役「GREEN×CAPTAIN（グリーン・キャプテン）」には秋元真夏さんが就任！

「ヨコハマ未来創造会議」には、次世代の若者に伴走する役割を担う「GREEN×CAPTAIN」がいます。この度「GREEN×CAPTAIN」に任命されたのは、元・乃木坂46でグループ在籍時にはキャプテンを勤めた経験を持ち、現在はバラエティやラジオ、舞台などで幅広く活動中の秋元真夏さん。



GREEN×CAPTAINに就任した元乃木坂46キャプテン、秋元真夏さん

今回のイベントが「グリーン・キャプテン」就任後初めての登場ということで、「今回こうして皆さんと一緒に未来の横浜について考える機会をいただけて本当に嬉しく思っております」と参加者を前に挨拶。さらに秋元さんにとって、祖父母の家や通っていた大学が横浜市にあったことを明かし、「横浜はすごく心が落ち着く場所」と語りました。

また、キャプテンとしての経験について聞かれると「一番大切にしていたことは、ひとりひとりに寄り添って、個性に目を向けること。今回もGREEN×CAPTAINとして、学生の方や社会人の方の意見をしっかり取り入れて、寄り添って、みなさんと一緒に進んでいけたら」と意気込みました。

GREEN×EXPO ラボ チェアパーソン 涌井史郎さんによるキーノートスピーチ
続いて行なわれたのは、GREEN×EXPO ラボのチェアパーソンであり、東京都市大学特別教授、岐阜県立森林文化アカデミー学長の涌井史郎さんによるキーノートスピーチ。

涌井さんは「みなさんこそが、持続的未來の中心となる世代」であり「それは決して楽しいことだけではなく、厳しい未来が待っている」と指摘。続けて「私たちの世代は経済成長を享受し、足下に暗い影を落としてしまった」と話し、解決に向けて「小さな種を植えさせていただいて、みなさんにそれを育てていただきたい」と、未来への願いを若者へ語りかけます。

また大切にすべきこととして「当たり前ものを当たり前だと思わず、自分たちの力でどう支えられるか考えること」「仮想現実には傾けば傾くほど、本物の自然に触れること」「他の

生き物と共存し、そこに喜びを感じ、その恵みに感謝すること」を挙げました。参加者もメモを取るなど、熱心に涌井さんのスピーチに耳を傾けました。



GREEN×EXPO ラボのチェアパーソンを務める涌井史郎さん

世代間の垣根を越えて、未来を語り合う車座トーク

その後、山中市長、秋元さん、涌井さん、さらに参加者の中から選ばれた複数名がステージに登壇し、環境問題を切り口に、3つのテーマをもとにディスカッション。地球、そして横浜の未来について、世代間の垣根を越えて”車座形式”で語り合いました。

“地球の限界”をどんなときに感じているか

一つ目のテーマは「プラネタリーバウンダリーについて」。実際、どんなときに”地球の限界”を感じるかと訊かれた参加者は「海に行ったとき、ゴミが浮いていて誰も落ちたくなさそうだった」「砂浜にプラゴミが打ち上げられていた」などそれぞれの実体験を話します。また、異常気象を挙げる参加者も。「東南アジアで起きているような台風や洪水が、目に見えてわかるぐらい増加している」と話しながら、「遠くのことには聞こえるけど、長い目で見たら日本にも影響があることだと思う」と懸念する声も挙がりました。

これらの意見に対して、秋元さんも「20年前は”地球温暖化”という言葉は聞いたことがあっても、自分の生活の中で身をもって体感したことは少なかった」と頷きます。



車座形式で参加者と議論する秋元さん、山中市長、涌井さん

なぜエネルギー転換など、社会全体で脱炭素が求められているのか

二つ目のテーマは「エネルギー転換」について。「一つのセクターだけで取り組んでもうまくいかないのがGX」「個人のアクションレベルに頼るには時間が足りないのではないか」など、シビアな意見も寄せられました。

若者からの意見を真摯に受け止めながら「かつて環境対策はお金がかかると思われていた」と山中市長は振り返ります。「長期的な目線で考えれば、環境問題は回り回って自分たちのビジネスに跳ね返ってくるので、企業レベルや社会レベルで対策していかなければいけない」と話します。また、涌井さんは「先進国は途上国に『成長しちゃダメよ』なんて言えない」と複雑な背景があることも指摘。「環境ストレスは脆弱なところにかかるので、世界全体でバランスを取っていかなければいけない」と強調しました。

迫り来る環境問題に対して、どんなアクションをしているか

最後のテーマは「環境問題に対する身近なアクション」について。参加者は、自分がアクションする際に「海外の人と共同で若者の声を届けること」「世界の事例に目を向け、環境問題も、その解決に向けたアクションも、身近なものであると伝えること」を大切にしていると語りました。それに対し、涌井さんは「インターナショナルに繋がっていこうという意識がすごく良い」と絶賛します。山中市長も「”for youth”ではなく”with youth”で取り組んでいくべき」と共感しました。

横浜で咲かせたい未来を、リボンに込めて

議論の熱も冷めやらぬ中、会はクロージングに。終盤には、参加者全員に受付時に配られていたリボンに「横浜で咲かせたい」ものを記入するリボンワークが行なわれました。それぞれのリボンを繋げて、ひとつの地球を模した”リボンアース”をつくります。子育て・教育にまつわることから環境への配慮など、さまざまな想いが綴られました。

今回つくられたリボンアースは今後のイベントでも使用し、回を重ねていくごとに、咲かせたいそれぞれの思いの数だけ大きくなっていく予定です。



参加者によって繋がれたリボンを受け取る秋元真夏さん



「横浜で咲かせたい未来」が詰まったリボンアース

横浜を拠点に活動するバンド・レイラによる生演奏ライブ

リボンワーク終了後、参加者は自由に交流しながら、横浜市を本拠地とするロックバンド、レイラによる演奏を楽しみました。演奏後、Vo/Gt. の有明さんは「自分たちの活動拠点でもある横浜のイベントに携われて嬉しいです」とコメント。さらに「自分のことで精一杯の人も多いと思いますが、思いやりを持てば、明るい未来が待っているんじゃないかなと思います」と同世代の若者たちに寄り添いながら、未来への想いを語ってくれました。

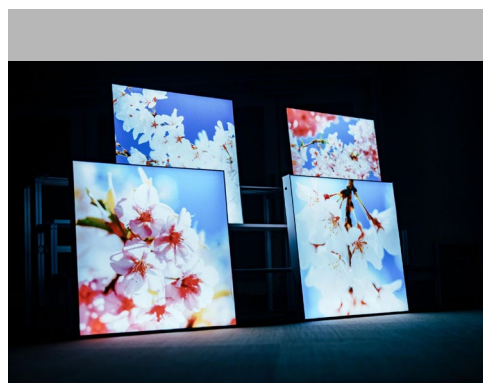


横浜市を本拠地に活動するロックバンド「レイラ」による生演奏ライブ

また、会場では植物をモチーフにした展示も実施。横浜市出身の写真家・植村マサさんによって切り取られた桜の花々は、港町横浜を連想させる青い空が印象的。フローリスト・野上璃恵さんによってこの日のためだけにつくられた迫力のフラワーアレンジメントのテーマは、「草花の循環」。こちらはイベント終了後に小さな花束に分けて配られ、参加者の思い出の品となったに違いありません。



フローリスト野上さんによる「草花の循環」



横浜市出身の写真家・植村さんによる写真展示

ヨコハマの未来を考え、アクションに繋げるコミュニティメンバーを募集予定

未来の社会を担う企業や学生が議論をして、アクションを起こすきっかけとなるプラットフォーム「ヨコハマ未来創造会議」。本格始動に先駆けて行なわれたキックオフイベントに

は、およそ100名の横浜にゆかりのある若者たちが集まりました。それぞれが未来の地球のために、横浜のために何ができるかを考えさせられる機会になったことでしょう。

「ヨコハマ未来創造会議」の本格始動は2024年4月以降を予定しています。



「ヨコハマ未来創造会議」のイベント・活動については公式SNS等で随時更新していきます。フォローの上、続報をお待ちください！

X(旧Twitter): <https://twitter.com/yokohamanextgen>

Instagram: https://www.instagram.com/yokohama_next_gen